



園だより

文京区立第一幼稚園
令和2年度12月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

伝え合い、響き合う生活

園長 田村 秀子

冬の足音が近付いてきました。土の庭のイチョウやカエデも少しずつ色付いてきます。きっともうすぐ鮮やかな落ち葉が土の庭を彩ることでしょう。子供たちと落ち葉を集めて、フカフカした上を歩いたり寝転んだりして、落ち葉の匂いや感触を楽しみたいと思います。ドングリや落ち葉からかわいい作品も生まれています。

さて、先日、年長組が素敵な「まち」を作りました。例年は遠足で遊園地に行き、遊園地作りをしていましたが、今年は遊園地遠足ができなかったため、自分たちの作りたてのお店を作ることになりました。お化け水族館、はやぶさと名鉄、ジェットコースター、コーヒーカップ、ファミリーレストラン、コンビニ、ビー玉転がしのゲーム、洋服屋、飛行機飛ばしのゲーム、ペットショップ、パン屋、アクセサリ屋、電車、タクシー。数人の友達と一緒に、作っては遊び、また作っては遊び、修理しながら創り上げ、名前は「むらさきぐみまち・すべしゃる」「みどりぐみとくべつねんちょうらんど」となりました。「“こどもらんど”だと子供みたいだから“ねんちょうらんど”がいい」という子供たちのこだわりが入っています。今年は遊戯室を食事の場にも使っているため、初めて屋上を乗り物の場として活用しました。

ジェットコースターでは、段ボールで作った車体に、動かすレバーを付けたい子と付けたくない子がいて、こんなやりとりをしていました。「レバー付けたいよ」「やだよ」「なんで付けたいの」「だってジェットコースターにはレバーがあるじゃん」「どうやって作るの」「トイレットペーパーのしんを二つくっつけて…」「…」「何で嫌なの?」「だって狭くなるじゃん」「レバーを引いても本当に動かないじゃん。だからいらないよ」「誰かが動かせばいいじゃん」「困ったねえ」「じゃあ明日決めようよ」「明日色塗ってから決めよう」ここまで全部「いーれーて」「だーめーよ」のリズムで言っていたそうです。私も最近、子供たちがこのリズムで言い合いをしている様子を見ました。自分の考えを主張する時、怒った言い方にならないように、子供なりに工夫しているようです。理由を言葉で言えるようになっていて感心しました。結局レバーを手で持って動かしたとか。

お寿司屋さんやパン屋さんには「あるこーるしょうどく」と書いた小さい容器があり、お店の人が「手を出してください」と言ってお客さんの手を消毒する仕草をしていました。レストランの人は胸にネームプレートを着け、お客さんが注文すると手際よく厨房の人に調理を頼んでいます。洋服屋さんは「これ、素敵ね」と言うと「どうぞ着てみてください」とどんどん試着させてくれました。ペット屋さんでは手作り動物が遊べる場所も作ってあります。お店の人同士で役割を分担し、協力して頑張っていました。

一生懸命作った「まち」に年少組、年中組の友達も来てくれた時は「今日はお客さんがいっぱい忙しかった!」と言いながらも、とても嬉しそうでした。相手によって言葉や動きが違い、お客さんに合わせているのを感じました。友達とイメージを実現していく難しさと楽しさを味わい、いろいろな友達と関わることで、相手の思いを感じたり考えたりしながら動けるように育っています。お客さんになった子供たちも嬉しそうで、お礼の手紙を届けた子たちもいます。自分たちのやりたいことを実現していく子供たちの力は素晴らしいと実感しました。

12月も感染予防を続けながら、身近な自然に触れたり、生の音楽に触れたりして、感じたことや考えたことを伝え合い、楽しさが響き合う園生活にしていきたいと思いません。保護者・地域の皆様には、今年も温かいご協力・ご支援をありがとうございました。